

大基委大評第 149 号
平成 26 年 3 月 17 日

東洋英和女学院大学
学長 村上 陽一郎 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（東洋英和女学院大学）」

以上



＜ 改善報告書検討結果（東洋英和女学院大学） ＞

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 9 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、人間科学研究科におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に関し、組織的な取り組み体制は整備されつつあるが、具体的な FD 活動の実施に至っていないため、改善に向けて一層の努力が望まれる。また、同研究科博士後期課程における学位論文審査基準に関し、2013（平成 25）年度の早い段階に確定し、2013（平成 25）年度中に公開が予定されているので、学生・大学院学生に対し、速やかに公表することが望まれる。さらに、同研究科博士後期課程の学位授与状況について、学会活動の活性化などの方策が講じられているものの、依然として学位授与数が少なく、いまだ成果がみられないので、引き続き改善が望まれる。加えて、同研究科博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後に、再入学などの手続きを経ず、「学位論文」を提出して課程博士の学位を授与していたことに関し、改善策の検討は行われているが、制度の変更などには至っていないので、課程制大学院制度の趣旨に照らして、適切な学位授与を実施するよう、速やかな対応が望まれる。

教員組織については、人間科学研究科臨床心理学領域における専任教員 1 人あたりの指導学生数が依然として多いので、引き続き改善に向けた努力が望まれる。

研究環境については、科学研究費補助金等の外部資金への申請数・採択数が低調であった点に関し、外部資金調達を試みとして「GP 委員会」の設置や教員一人ひとりに対する年間の研究計画書・研究報告書の提出の制度化など、外部資金獲得活発化のために種々の努力がなされているが、成果が上がっているとは認められないので、今後とも継続した改善に努めることが望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上